

情報種別 : 一般公開、JDMC会員内、研究会限り
情報所有者 : 2017年度 研究会3 MDMとデータガバナンス



日本データマネジメント・コンソーシアム (Japan Data Management Consortium)

2017年度研究会発表 『MDMとガバナンス』 研究会活動報告

2018年3月7日

研究会3 MDMとデータガバナンス



日本データマネジメント・コンソーシアム
Japan Data Management Consortium [JDMC]



テーマ名	テーマ3:MDMとデータガバナンス
目的	研究会メンバーの知識や体験を互いに提供しあい、共有・ディスカッションを通してMDMとデータガバナンスへの理解を深め、各々の活動に役立たせる。 MDM成熟度実態調査活動からMDMの実態を鑑みた成熟度に関する考察を展開する。
活動の概要	<ul style="list-style-type: none">・企業様のMDM案件事例や最新の「国内・海外のMDM事例」、「MDMの方法論」、「MDM製品」に関する研究内発表と共有・ディスカッションの実施・「企業におけるマスタデータの成熟度実態調査」と「MDM成熟度の考察」から企画、設計、導入、運用等の各局面における難所や成功の為の秘訣を考察
アウトプット	MDMとデータガバナンスを客観的に把握する研究 その活動報告と考察

MDM World Compass(羅針盤)

『MDMとデータガバナンス』



レベル 要素	Level0 (個別)	Level1 (DI)	Level2 (DQ)	Level3 (MDM統合)	Level4 (MDM データガバナンス)	Level5 (MDM システム開発ナレッジ)
社外連携	システム毎 個別社外連携 構築プロジェクト有り	PGLレス 個別社外連携 保守の範囲		MDMマスタ毎 社外連携 連携の日常業務化	統合MDMマスタ 社外連携 EDIまたはSaaS連携	知識集約統合MDM マスタ社外連携 追加の日常業務化
データ活用	目的別システム毎個別画面・個別BI		汎用共通データ別BI	MDMマスタ毎BI MDMからマスタ連携	統合MDMマスタBI・自動生成画面 分析用カテゴリ管理の共通化	
マスタ集約	システム毎 個別マスタ 状況不明	個別データ連携 個別マスタ 重複あり・不整合あり	共通データ管理 個別マスタ 重複・不整合が軽減	マスタ毎ゴールデン レコード定義MDM 一元化の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンプロフィール一箇所集中管理 MDM ・管理元権限集中(追加、更新、削除) ・データ品質集中管理 マスタ追加・品質ルール追加の日常業務化 	
データ品質	システム毎 データ品質管理 データ型チェック	個別データ品質 チェックシステム 恣意的に値チェック	全システム共通基準 データ品質維持活動 標準的に値チェック			
タイミング	個別不定期反映 必要に応じ個別連携・手転記		共通定期反映 連携タイミング等は一元管理		共通 ほぼリアルタイム反映 個々のシステムに最適タイミングで同期	
データ連携	PG毎データ連携	PGLレスデータ連携 連携の共通管理		ゴールデンレコード・ゴールデンプロフィール 各システムへのMDM主導配信 「カガミ」の存在と同期の保証		知識集約 用語の機械可読化
基盤	システム毎個別データ 連携機システム	全システム共通データ連携システム 明示的な「基盤」を持つ				

凡例: 従来のやり方 MDM固有タスク

ポイント:データガバナンスによって、データ品質をいかに維持し続けられるか重要



MDM フェーズ軸、人間機械軸での検討『MDMとデータガバナンス』

		フェーズ軸		
		企画	移行	運用
人間機械軸	人間系	ビジネスニーズ: 名寄せ ビジネスニーズ: 誤情報訂正(住所等) ビジネスニーズ: 定量化 ビジネスニーズ: 分類・カテゴライズ化 ビジネスニーズ: 変更履歴追跡可 ビジネスニーズ: 最新化ルール策定 ビジネスニーズ: 志向性のデータ化 ビジネスニーズ: マーケティング活用 ビジネスニーズ: 人材育成活用 ビジネスニーズ: 地図化の容易性 ビジネスニーズ: 基盤ビジネス化 ビジネスニーズ: 漏えい対策・自動保護 ビジネスニーズ: 情報セキュリティ	コツ: 要件を満たすデータの準備ができるか? コツ: 必要な取込データ項目の洗い出しと決定(外部インタフェース部) → 要件定義が無い場合は柔軟性要 コツ: コード採番の自動化(人間系でやらないほうがよい?) コツ: 正本マスタへの反映不可条件有無(反映するとおかしくなるのを事前検知できるか?そこまでする必要ある?) コツ: データリレーション定義(コード化、文字列曖昧検索・意味解析、自動相関化) → MDM Levelをより高くする考慮要	課題: データ項目追加に柔軟に対応できない 課題: データの最新化ができず古いままなので分析に使えない 課題: リアルタイム性がないため、迅速な対応に使えない 課題: データ集約度が合わない為、既存システムとの連携が難しい 課題: 既存システムデータとリレーションできない為、使えない → MDM Levelをより高くする考慮要
	テクノロジー			

『移行』と『運用』における多くのコツや課題に対しては、データガバナンスによる予防の考慮や、日々のPDCAサイクルによる改善が重要



成熟度モデル

基本モデル	顧客データ統合系 CDI (Customer Data Integration)			仕入先データ統合 SDI (Supplier Data Integration)	製品情報系 PIM (Product Information Management)
モデル名	1: CDI-D/D (Distributor: 卸売業 / Dealer)	2: CDI-Business	3: CDI-Consumer	4: SDI	5: PIM
形態	B2B 販売流通系	B2B (対象は法人)	B2C (対象は個人)	B2B	社内中心
固有特性	各モデル毎に「データ・ガバナンス、データ品質、メタデータ、データ辞書」を個別に管理				
共通基盤	モデル0: DG(共通データ・ガバナンス)				

モデル0: 共通データガバナンス

カテゴリ	成熟度評価軸	補足説明
ライフサイクル管理	1)コード発行	コード発行に関するルール整備とシステム化の度合い
	2)変更・履歴管理	変更管理のポリシー
	3)廃棄などの終了管理	廃棄に関するルール整備とシステム化の度合い
マスタ管理の高度化	4)マスタ分類管理	マスタ分類管理の高度化
	5)マスタ階層管理	マスタ階層管理の高度化
	6)マスタ間関連情報管理	マスタ間関連情報管理の高度化
	7)マスタレコード重複管理	マスタレコード重複管理の高度化(名寄せなど)
インフラ整備	8)データ分析環境	データ分析を行うための環境が整備されている度合い(定形的な分析)
データ分析	9)データ分析の目的	データ分析の貢献度合い
外部データ活用	10)外部データ活用	外部データ活用の度合い
セキュリティーポリシー	11)セキュリティーポリシー	情報セキュリティーポリシーの整備度合い
メタデータ管理	12)メタデータ管理環境	メタデータ管理を実施するに当たってのインフラ整備度合い
	13)メタデータ管理制度	メタデータ管理を実施するに当たっての施策実行度合い
データ品質管理	14)データ品質管理	データ品質管理及び運用の度合い
	15)データ品質管理ソフトウェアの導入	
マスタデータ統合管理	16)マスタデータ連携	各業務マスタを自動連携している度合い
	17)マスタ統合管理(MDM)	データ統合管理及び運用の度合い
	18)データ統合管理(MDM)ツールの導入	



- **経験に基づくMDM・DG実践ノウハウを探求**
 - QCDを満たすMDM企画、移行、運用の探求
 - 目指すべきMDM利活用の方向性
 - データガバナンス
 - データ活用・分析
 - ビジネススピードアップ
 - 次ステージに向けてレベルアップを図る際の具体策
 - MDMサービス・ソリューション導入
 - メタデータ整備
 - ゴールデンレコード・プロフィール定義
 - 羅針盤のブラッシュアップ
 - 成熟度評価指標のさらなる追加と拡充
- **新たな関連製品、最新技術の情報収集と共有**